

たけ べ そう ちよう

建部 巢兆

— 千住に暮らした 文人 —

江戸の書家 山本龍斎の子として生まれ、千住河原町の藤沢家の養子となった建部巢兆(1761~1814)は、関屋の里に住み、そこに「秋香庵」という拠点を構え、画と句の世界に遊んだ著名な文人として知られています。俳人の加舎白雄に俳諧を学び、河原町の商人を中心とする俳諧集団「千住連」を率いて、夏目成美、鈴木道彦とともに江戸俳諧の三大家の一人に数えられました。

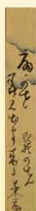
また、雪舟の様式ややまと絵を学び、画を得意とした巢兆は、細密な画風から水墨画、そして俳句と画を合わせた俳画まで幅広い作風を展開した江戸後期随一の俳画師でもありました。巢兆の暮らした千住の地には、今でも巢兆の作品の多くが残っています。



▲《江都名所十二月 浅草》江戸時代



▲建部巢兆編《はいかり小さら》江戸時代



▲短冊
「春がせ花見出て来る鼻の先」



▲《盆踊り図》江戸時代



▲《「春そとて」》句自面賛
江戸時代